



「考えの形成」の授業

☆今回のチャレンジポイント！

『初発の感想の段階で「書く」から入る』

一次「考えの形成」→二次「精査・解釈」→三次「考えの推敲」

一次と三次で挟んだ単元づくり 推敲するために作品を読む！

「作品の特性を活かした授業にするために」

☆大切なのは教材分析

○「メディアと人間社会」

…「社会」の過去と現在について書かれている

→内容につなげて「社会」の未来について開く授業展開

○「大切な人と深くつながるために」

…「あなた」の未来について書かれている。

→内容につなげて「わたし」の過去現在を振り返り未来について開く授業展開

表現活動の

①目的：何のために？（表現活動する場の必然性はあるか？）

②宛名：誰に向けての表現か？

③立場：読み手として？ or 人物になりきって？ or 筆者として？

④内容：何を表現するのか？

→ ア) これまでに学習したことをまとめる

→ イ) 教師のしかけ（問い）に対して、自分の読み・考えを書く

→ ウ) 感想・予想・考えたことを級友と分かち合う

比べて読むこと

比べる対象

自分⇔自分 自分⇔仲間 自分⇔筆者

「二つの作品の納得度を5段階であらわすと？」

自分の中でのズレ

→二つの作品との距離感の認識

自分と仲間とのズレ

→自然な対話生まれる

自分の考えと筆者の考えとのズレ

→考えの形成生まれる

複数の教材を読み比べることで深い学びへと導く。

「対話に開く」

「45分の中でどこまで深めていけるか」の単元構成をめざす

深めるためには「対話」が必要

→プロセスの時間の確保

教師がしかける方法 交流の方法

まとめの方法 子どもたちで課題を作る方法

「何を、何のために、どうやって」考えていくのか！